

そんな風に日本の検察が揺れる今、絶好のタイミングで3人の警察官の人生に焦点をあてた本作が公開されることに。

アメリカ、ニューヨークのブルックリンにある低所得者用の団地“BK公営住宅”で起きた警察官による強盗殺人事件の発生のため、今ニューヨーク市警は市民から激しい非難を浴びていた。それを治めるためには、犯罪には縁遠い善良な黒人青年を殺した警察官を早期に逮捕・処罰するとともに、警察のイメージアップが不可欠！しかし、日本でもたびたび報道されるように、警察内部の腐敗は数多い。ニューヨーク市警ではイメージアップ作戦のため警察官への取り締まり強化を開始したが、さてそれは、本作の主人公である3人の警察官にいかなる影響を？

三人三様のキャラ その1 エディ

前代未聞の逮捕劇の主人公となった日本の検察官3人もそれぞれ個性的だが、本作の主人公になるニューヨーク市警の3人の警察官もキャラが際立っている。本作はそんな3人の警察官の「群像劇」だから、まずはそのキャラの紹介を。

本作のトップキャストは、リチャード・ギアが演ずるエディだが、彼は定年を1週間後に控えた、コトなかれ主義の警察官人生を歩んできた平凡な警察官。したがって、他の2人に比べると個性が弱そうだが、妻子がおらず、唯一の心のよりどころは婚婦のチャンテルだけというのは、一体なぜ？

ニューヨーク市警に激震が走った今、エディに与えられた仕事は犯罪多発地区における新人教育。私にはこりゃ1番安全な仕事と思えたが、エディは最初のクソ生意気な(?)新人と大ゲンカ。その結果、担当替えになった2人目の新人はエディの教えを忠実に守ろうとしたが、意外にも……。そんな展開の中でエディが見せる最後の意地とは？

三人三様のキャラ その2 サル

警察官は家庭を省みず仕事一筋というタイプが多いが、その正反対が麻薬捜査官のサル(イーサン・ホーク)。彼には愛する妻と5人の子どもがいたが、さらに今妻のお腹の中にいる子どもは双子らしい。橋下徹大阪府知事ほどの収入があれば7人の子どもを養うことも可能だが、ニューヨーク市警の安月給ではそれは大変?あんなに何回も命の危険を冒しながら取引現場に踏み込んでいるのだから、危険手当だけでも相当な額になるのでは?私はついそう思ってしまっただが、それはすべての条件が民より有利な日本の公務員をイメージしているため?

妻が今ぜんそく気味なのは、家が古いためらしい。そんな健康上の理由と、子どもたちの広い家への移転希望をかねえるためには、金を稼がなくなっちゃ。頭金の支払期限が迫る中サルは焦っていたが、まさか麻薬取引を摘発する現場に踏み込んだ際、そこで発見した金に手を出すわけには……?

映画はラストに向けて、サル、千々に乱れる心の中に迫っていく。「今の幸せを直視しろ」「俺なんか子どももないんだ」と心からのアドバイスを送る親友の警察官もいるのだが、家族思いのサルが最後に下した決断とは？

三人三様のキャラ その3 タンゴ

3人の中で最も異色なのが、“BK公営住宅”に基盤を持つギャング団の中に潜入捜査官として入り込んでいるタンゴ(ドン・チードル)。潜入捜査官と聞けば、エリート中のエリートというイメージがあるが、タンゴはその任務遂行上妻に会うこともできないうえ、昇進とも縁遠いようだから、ニューヨーク市警の潜入捜査官は特別？ギャング団の中にイザコザがあるのは当然だが、ボスのキャズ(ウェズリー・スナイプス)はつい先頃出所してきたばかり。今やタンゴとキャズとの絆は堅固なものになっていたが、全然報われない仕事に長年従事してきたタンゴはこの仕事に疲れ気味。

そんな中、警察上層部のホバーツ副署長(ウィル・パットン)とスミス捜査官(エレン・パーキン)は、おとり捜査でキャズを逮捕することによって警察の威信を市民に示そうとしたから大変だ。タンゴは「そんな命令には従えない」と拒否したが、キャズを逮捕すればタンゴは昇進させてもらえるらしい。そんな「エサ」の前に、タンゴの心が千々に乱れたのは当然だが、さてタンゴは最後にどんな決断を？

正義とは？そんなテーマの脚本を書いたのは？

本作のテーマは「正義とは？」というきわめて難解なもの。つまり、それぞれ持ち場や経歴は異なるものの、エディ、サル、タンゴの3人が目指しているのは、警察官としての「正義」なのだ。といっても、警察官の「正義」は犯人を逮捕することであり、事件の見立てから捜査、起訴、公判維持までのすべてを担当する日本の特捜検事の正義とは全然違うはず。また「何が正義か？」は難しいうえ、組織体として動くのは警察も検察も同じだから、自分の「正義」への思いと組織としてのそれがズレた場合、悩みは深くなる。

ハリウッド映画には警察官を主人公にした名作が多いが、本作における3人の警察官の「群像劇」の脚本を書いたマイケル・C・マーティンは、本作が脚本家デビュー作らしい。そんな関係もあって、私にはサルとタンゴのストーリーについては一貫したテーマが貫かれているが、エディについては後半に至って無理矢理ストーリーを追加されている感がある。司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』は秋山好古・真之・正岡子規3人の青春群像劇だが、彼らは最初から相互に密接な人間関係を持っていた。しかし、本作の主人公となる3人の警察官は相互に全く接点を持たないまま、それぞれのストーリーが進んでいく。それはそれで面白いのだが、脚本はラストに向けて3人の接点をどのように？そのために(?)後半設定されたストーリーがある少女の誘拐事件だが、これまでの警察官人生においてコトなかれ主義を貫いてきたエディが、なぜこの事件だけは必死に食らいつくの？私の目には

そこらあたりが少し脚本上の無理筋に見えたが、さてあなたの理解は？

大阪地検特捜部と同じように、エディ、サル、タンゴの3人もそれぞれ自分なりの「正義」の実現を目指していたことはまちがいない。それが、なぜこんな結末に？そんな面白い脚本に、あなたはどこまで納得？

2010(平成22)年10月4日記

ラジオ出演(FM千里)で最新作を解説！

1) 毎週土曜日の午後5～6時にFM千里で放送されるのが「映画の森」。そのパーソナリティが、試写室でよく出会っている林ひろ子さんだ。ある日、彼女と話がはずむ中、08年6月21日に続いて今回10月23日に再びその番組にゲストとして出演し、『ロビン・フッド』『ラスト・ソルジャー』『三国志』の見どころを解説することに。

2) 『ロビン・フッド』の見どころとして弁護士の私が指摘したのは、1215年6月15日に成立したマグナカルタ(大憲章)の意義。1789年のフランス革命に先立つこの時代に、イギリスでなぜ諸公連合が国王の権利を制限することを内容とする大憲章を成立させたの？そして、ロビン・フッドがそれいかなる関係が？冒険活劇を楽しむのもいいが、そんな歴史的視点を持てば映画鑑賞の楽しみが広がるはずだ。

3) ジャッキー・チェン映画は最近少しワンパターン化していたが、『ラスト・ソルジャー』は別。原題「大兵小將」は中国でも大人気だが、これを楽しむためには時代背景の理解が不可欠だ。そもそも、ジャッキー・チェン扮する大兵が所属する梁の国も、ワン・リーホン扮する

小將が所属する衛の国も架空のもの。「戦国七雄」の1つであった最西端の国秦が征服したのは、楚・斉・燕・趙・魏・韓の六国だ。また、梁と衛の双方3000人の将兵が全員死亡したという鳳凰山の戦いも架空。映画は所詮作りもの、として2人が織りなすロード・ムービー(?)を楽しまなくっちゃ。

4) 次は『三国志』。これは、1話45分で全95話からなる本格的な三国志。時代は、2世紀末、後漢の末期、黄巾の乱によって千々に乱れた中国大陸にはきら星の如く英雄豪傑が登場し、壮大なドラマが展開する。製作費25億円、製作期間6年、中国ドラマ史上最高の超大作というから恐れいる。ひょっとして、08年の北京オリンピック、10年の上海万博に続く、国家プロジェクト？第1～6話では、若き日の英雄・曹操の苦難と野心が見どころだ。日本人は「桃園の誓い」を結んだ、劉備・関羽・張飛の3兄弟とりわけ関羽が大好きだが、日本国の地盤沈下が著しい今、清濁合わせ飲む英雄・曹操にもっと注目しなければ。とくに近頃自信なさげな姿が痛々しい菅直人総理は、今こそ必見！

2010(平成22)年10月28日記